

	定性評価		定量評価		まちづくり推進委員会意見
	①事業評価集計	②施策方針評価集計	③K P I（重要業績評価指標）	④K G I（アウトカム数値目標）	
基本目標 1 働く：雇用	A： 2 件 B：1 7 件 C： 2 件 D： 1 件	A： 0 件 B：1 2 件 C： 0 件 D： 0 件	A： 2 件 B： 0 件 C： 1 件 D： 1 件	C 村内事業所従事者数	5 年間の計画期間における各種施策事業の進捗により、定性評価及び定量評価には一定の成果が確認できる。特に、施策事業の評価となる定性評価においては A 及び B を合わせて 8 割以上を占めており、個別事業の進捗は概ね順調に推移しているといえる。 一方、一部の事業において定性評価と定量評価に乖離が見られ、事業の成果が数字に表れにくい状況が明らかになっている。この点については、次期計画に向けた課題として、施策事業、方針及び指標設定の関係性が適切であるか否か、十分に検証する必要がある。 人口減少、少子高齢化が進展する中、より訪れる魅力のあるまちづくりを進めることで交流人口の増加を図り、高齢者も子育て世代も共に生活のしやすい環境を整えることで人口減少を抑制するとともに、地域産業の活性化による雇用の創出を図るという、「まち・ひと・しごと」の好循環を生むことが地方創生の理念である。 本村においては、この 5 年間の取組によって好循環がもたらされたという状況ではなく、各種指標にも厳しい現実が突き付けられている。これまでの取組により得られた成果及び課題を踏まえ、将来にわたって持続可能な村を実現するための展望を描き、それに向けた取組を着実に進めるため、間断なく次期計画へ移行することが求められる。
基本目標 2 人々が集う：コミュニティ	A： 1 件 B：1 0 件 C： 1 件 D： 0 件	A： 0 件 B： 8 件 C： 2 件 D： 0 件	A： 0 件 B： 0 件 C： 2 件 D： 1 件	A 人口社会増減数	
基本目標 3 結婚・出産・子育て	A： 2 件 B：1 2 件 C： 4 件 D： 1 件	A： 1 件 B： 7 件 C： 3 件 D： 0 件	A： 1 件 B： 1 件 C： 1 件 D： 0 件	C 合計特殊出生率	
基本目標 4 住む魅力のあるまちづくり	A： 0 件 B： 7 件 C： 3 件 D： 1 件	A： 0 件 B： 6 件 C： 2 件 D： 1 件	A： 0 件 B： 0 件 C： 2 件 D： 0 件	D 村に住み続けたい人の割合	
総合	A： 5 件（ 7.8 %） B：4 6 件（7 1.9 %） C：1 0 件（1 5.6 %） D： 3 件（ 4.7 %）	A： 1 件（ 2.4 %） B：3 3 件（7 8.6 %） C： 7 件（1 6.7 %） D： 1 件（ 2.4 %）	A： 3 件（2 5.0 %） B： 1 件（ 8.3 %） C： 6 件（5 0.0 %） D： 2 件（1 6.7 %）	A： 1 件（2 5.0 %） B： 0 件（ 0.0 %） C： 2 件（5 0.0 %） D： 1 件（2 5.0 %）	
評価目安	【定性評価】 A：計画以上に進捗しており、継続して推進する B：ほぼ計画通り進捗しており、このまま継続して推進する C：目標をやや下回る見込みであり、要因の分析と見直しの要否を検討する D：目標を大きく下回る見込みであり、要因の分析と見直しを要する		【定量評価】 A：達成済みもしくは順調であれば達成する可能性が高い（達成率 8 0 % 以上） B：最終的に達成するか不明であるが、順調に数値としての成果が上がってきている（達成率 5 0 % ～ 8 0 %） C：目標年次のデータは未確定であるものの、このままだと達成する見込みが薄い（達成率 5 0 % 未満） D：目標年次の目標値に対して未達成である		

第 1 期長生村総合戦略評価書：個票 1

基本目標Ⅰ「働く：雇用」

			事業名	取組内容	定性評価	施策展開の方針	定性評価	KPI（重要業績評価指標）			定量評価	まちづくり推進委員会意見						
プロジェクト①	長生村の良さを創る農業振興プロジェクト	（１）新たな長生村農業の振興	①アイガモ農法の推進	・アイガモオーナー制度の実施 ・アイガモ農法米、アイガモ肉のブランド化	B	①付加価値の高い農産物の生産	B	①村内の 水稻の作 付面積の 維持	基準値	681ha （H 2 6）	⇒ 達成率 — 到達度 A	進捗状況は比較的良好で、13の事業のうちB評価は11件となっており、2つのK P I もともにA評価となっている。 C評価の「地場産品を用いた加工品販売支援」については、事業は遅れているものの着実に進捗しており、事業手法の改善を図りつつ引き続き進行すべきものと考えられる。 D評価の「遊休農地面積の減少」については、遊休農地は増加しており、農家の高齢化や後継者不足が原因と考えられる。 同じくD評価の「道の駅の設置検討」については、計画創案時と現状の社会情勢の変化等を十分比較した上で、事業自体の必要性から改めて検討する必要がある。						
			②地場産品を用いた加工品販売支援	・地場産品による加工試験や加工品の試験販売の支援 ・地場産品を用いた特産品の創出	C	②農産物の新たな販売網の育成・整備	B		成果値	708Ha （H 3 0）								
			③道の駅の設置検討	・新たな農産物の販売網の整備検討	D	③中長期的な長生村農業の振興策検討	B		目標値	681ha （R 1）								
			④長生村農業の中長期振興策の検討	・TPP等の外部環境の変化に対応できる地域農業の検討 ・担い手を含め、中長期的な長生村農業の振興策の検討	B													
			⑤安定的な農業経営体の育成	・Ｉターン、Ｕターン者を対象とした新規就農者育成支援 ・新規就農者経営安定化のための給付金支給 ・認定農業者の育成、組織づくり ・担い手営農組織の育成、法人化の検討	B	①遊休農地の有効活用	B		②遊休農地面積の減少	基準値			31ha （H 2 6）	⇒ 達成率 -116.7% 到達度 D				
		（２）遊休農地の有効活用	②長生（ながいき）村ファンの拡大	・観光農業の実施（アイガモ農法米、落花生、そばのオーナー事業） ・来訪イベントを通して本村のファンをつくる	B	②観光農業の拡充	B	成果値			38Ha （H 3 0）							
			③体験型農業の推進事業	・農業に興味を持つ村内外の人向けの体験型農業の実施 ・村内保育所園児、小中学生に対する農業体験事業の実施	B	①「ながいきブランド化」の構築	B								目標値	25ha （R 1）		
			（３）本村の特性を活かした農業の推進	①長生（ながいき）ブランド ブランディング（広域連携）	・長生郡市が持つ地域資源の長生（ながいき）ブランド化 ・長生トマトの加工品開発など、「ながいき」農産物ブランドの検討 ・アイガモ農法事業等との連携												B	②農業生産の振興
		②農業資源の維持・管理活動		・農地、水路、ため池、農道等の農業資源の維持管理 ・先進的営農活動の検討、支援	B													
		③水田の生産効率の向上		・小規模水田の集約による区画面積の拡大 ・担い手農家への利用集積	B													
		④新規需要米の推進		・主食用米に代わる飼料用米、WCS用稲等の稲作促進	B													
		⑤有害鳥獣駆除（広域連携）	・郡市内の市町村連携による有害鳥獣の駆除	B	プロジェクト②	働きたいと支援しようプロジェクト	（１）商工業の振興	①新規参入企業への支援	・新規参入企業への奨励金の交付 ・新規参入企業の用地確保の支援	B	①雇用を生み出す産業の育成・誘致		B	①「雇用促進」分野における住民の満足度の向上	基準値	7.0% （H 2 7）	⇒ 達成率 226.7% 到達度 A	
		②既存企業への支援	・企業の村内における移転、再投資への奨励金交付により企業の流出を防ぐ	A				②安定的な雇用を支える商工業の振興	B	成果値					13.8% （R 1）			
		③雇用促進奨励金の交付	・雇用促進奨励金を企業へ交付することにより離職者等に対する雇用の機会を増やす	B						目標値					10.0% （R 1）			
		④中小企業の融資に対する利子補給	・村内中小企業を対象に融資に対する利子補給を実施	B						②村内事業所数の増加					基準値	433事業所 （H 2 4）		⇒ 達成率 2.1% 到達度 C
		⑤都市計画道路の整備	・八積駅北口線の整備 ・東部台城之内線の整備による周辺自治体への通勤、通学及び流通などのアクセス性の向上	C														
（２）多様な働き手に活躍の場を創る次世代型雇用創出事業	①ハローワークとの連携	・ハローワークとの連携により、非正規労働者や中高年齢者等の雇用を確保	B	①多様な雇用機会の確保			B	目標値	480事業所 （R 1）									
	②男女共同参画社会の推進	・男女が社会のパートナーとして、伸びやかに生きられる社会の実現を目指すため、推進体制を整備	B	②男女共同参画推進体制の整備			B											
	③シルバー人材センターの支援	・健康で働く意欲のある高齢者に対し、就業の機会の確保と生きがいの充実、社会参加の推進を図る	B	③高齢者雇用の振興			B											
	④旧長生高等技術専門校跡地の活用検討	・企業誘致に努めるとともに効率的かつ効果的な利用を図り、雇用の創出につなげる	A															

定性評価の四段階の目安

- A：計画以上に進捗しており、継続して推進する
- B：ほぼ計画通り進捗しており、このまま継続して推進する
- C：目標をやや下回る見込みであり、要因の分析と見直しの要否を検討する
- D：目標を大きく下回る見込みであり、要因の分析と見直しを要する

定量評価の四段階の目安

- A：達成済みもしくは順調であれば達成する可能性が高い（達成率80%以上）
- B：最終的に達成するか不明であるが、順調に数値としての成果が上がってきている（達成率50%～80%）
- C：目標年次のデータは未確定であるものの、このままだと達成する見込みが薄い（達成率50%未満）
- D：目標年次の目標値に対して未達成である

K G I（ア外数値目標）

定量評価

村内事業所従業者数の増加	基準値	4,147人 （H 2 4）	⇒ 達成率 45.0% 到達度 C
	成果値	4,351人 （H 2 8）	
	目標値	4,600人 （R 1）	

第 1 期長生村総合戦略評価書：個票 2

基本目標Ⅱ 「人々が集う：コミュニティ」

			事業名	取組内容	定性評価		施策展開の方針	定性評価		K P I（重要業績評価指標）				定量評価	まちづくり推進委員会意見
プロジェクト①	長生定住促進プロジェクト	(1)「長生（ながいき）生活」プロジェクト	①健康づくり、スポーツ活動の推進	・健康相談、ウォーキング教室 ・各種健診の後の指導等による健康教育 ・健康づくり活動の自主グループの育成 ・各種スポーツ大会、競技別の大会や教室の開催 ・軽スポーツ体験会の開催	B		①健康で長生きできる村づくり	B		①65歳の平均自立期間	基準値	18.7年 (H 2 4)	⇒ 達成率 13.0% 到達度 C		進捗状況は比較的良好で、6件の事業のうち A 評価は1件、B 評価は 5 件となっている。一方で K P I は微増に留まっており、プロジェクトの成果は数字には表れなかった。次期計画は、施策事業、方針及び指標設定の関係性が適切であったか否か、十分に検証を加えた上で策定を進める必要がある。
			②広域医療体制の検討（広域連	・夜間急病診療所の適正受診の促進 ・産科医療体制の整備に向けた検討 ・災害時医療体制の整備に向けた検討	B		②安心をつくる医療・介護・福祉の体制整備	B			成果値	19.0年 (H 2 7)			
			③地域福祉の体制づくり	・介護にかかる負担の軽減（ショートステイ等） ・地域包括ケアシステムに向けた体制の整備 ・緊急通報装置の貸与 ・新聞配達業者等による安否確認	B		③高齢者の元気づくり	B			目標値	21.0年 (R 1)			
			④高齢者等の外出支援	・福祉タクシー等による外出支援 ・社会福祉協議会委託事業による外出支援	A		④スポーツ・レクリエーション活動の促進	B							
			⑤高齢者の介護予防事業	・脳のトレーニング教室等の実施 ・住民が主体となった地域で行う介護支援事業	B		⑤健康教育、食育の推進	B							
			⑥健康教育の推進	・各種健診事後指導等による健康教育の実施 ・地産地消の食育の実施	B										
プロジェクト②	縁を活性プロジェクト	(1)若者のUターン促進	①全国移住ナビの活用	・全国移住ナビを活用した情報発信を行い、移住・定住を促進	B		①移住・定住の促進	C		①Uターン転入者数の増加	基準値	159% (H 2 7)	⇒ 達成率 － 到達度 C		進捗状況は比較的良好で、6件の事業のうち B 評価は 5 件、C 評価は 1 件となっている。一方で K P I は下がっており、プロジェクトの成果は数字には表れなかった。次期計画は、施策事業、方針及び指標設定の関係性が適切であったか否か、十分に検証を加えた上で策定を進める必要がある。 C 評価の「空き家の有効活用」については、事業は遅れているものの着実に進捗しており、事業手法の改善を図りつつ引き続き進行すべきものと考えられる。
			②空き家の有効活用	・空き家の発生状況の把握と活用検討 ・移住、定住へ向けた村の資源としての活用	C		②青少年の健全育成のための環境整備	B			成果値	123人 (H 3 0)			
			③村全体で家庭を支える環境づく	・青少年健全育成活動の支援 ・子どもを地域で育てる環境をつくるための啓発 ・教育指導の相談体制の整備 ・安全安心パトロールの拡充 ・乳幼児向け災害時備蓄品の充実	B		③家庭と地域の連携	B			目標値	増加させる (R 1)			
			④次世代のリーダー育成	・地域の指導者、世話人となるジュニアリーダーの育成	B		④住民文化活動の促進	B		②若者世代の本村へのUターン希望率の向上	基準値	38.1% (H 2 7)	⇒ 達成率 -138% 到達度 D		
			⑤文化活動の発表の場づくり	・文化、芸術に接することができる機会の拡大 ・住民主体の地域文化の振興を図るイベントを開催	B		⑤村づくりへの参加及びコミュニティ活動の促進	C			成果値	21.7% (H 2 8)			
			⑥コミュニティ活動の促進	・地域におけるコミュニティ活動を通じた環境美化、防災防犯等の活性化	B						目標値	50% (R 1)			

定性評価の四段階の目安

- A：計画以上に進捗しており、継続して推進する
- B：ほぼ計画通り進捗しており、このまま継続して推進する
- C：目標をやや下回る見込みであり、要因の分析と見直しの要否を検討する

定量評価の四段階の目安

- A：達成済みもしくは順調であれば達成する可能性が高い
(達成率80%以上) 定量評価定量評価
- B：最終的に達成するか不明であるが、順調に数値としての成果が上がってきている
(達成率50%～80%)
- C：目標年次のデータは未確定であるものの、このままだと達成する見込みが薄い
(達成率50%未満)
- D：目標年次の目標値に対して未達成である

K G I（アウトカム数値目標）

定量評価

人口社会増減数（転入数－転出数）の維持	基準値	+6人 (H 2 6)	⇒ 達成率 589% 到達度 A
	成果値	+59人 (H 3 0)	
	目標値	+15人 (R 1)	

第1期長生村総合戦略評価書：個票3

基本目標Ⅲ 「結婚・出産・子育て」

			事業名	取組内容	定性評価	施策展開の方針	定性評価	K P I（重要業績評価指標）			定量評価	まちづくり推進委員会意見		
プロジェクト①	ブルジェクト①	（１）若者の出会いの場の提供	①MUR A来んプロジェクトの推進	・田植え、稲刈り等の長生ならではの要素を取り込んだ婚活イベントの開催	C	①出会いの場の提供	C	①「MUR A来ん」の参加者数	基準値	実施前	⇒ 達成率 到達度 A	進捗状況は平均をやや下回り、5件の事業のうちB評価が2件、C評価が2件、D評価が1件となっているが、K P Iについては増加しており、一定の成果はみられる。 C評価の事業は遅れているものの着実に進捗しており、事業手法の改善を図りつつ引き続き進行すべきものと考えられる。D評価の「長生地域婚活プロジェクト（広域連携）」については事業の道のりが険しいが、確実に効果のある事業と考えられることから、引き続き事業推進に努めるべきであると考えられる。		
			②長生地域婚活プロジェクト（広域連携）	・長生郡市7市町村で連携した結婚支援事業を実施	D				成果値	24人 （H 3 0）				
			③遊休農地の有効活用（再掲）	・新たなイベントへの遊休農地の活用	B				目標値	10人 （R 1）				
			④長生（ながいき）体験観光の実施	・貸農園の利用促進 ・体験型農業、生活体験の実施検討	C	②観光農業の拡充（再掲）	B	②村内における婚姻数	基準値	49件 （H 2 6）	⇒ 達成率 50.0% 到達度 B			
			⑤長生（ながいき）村ファンの拡大（再掲）	・オーナー事業（アイガモ農法米、落花生、そば）の募集案内、人的支援	B				成果値	52件 （H 3 0）			目標値	55件 （R 1）
プロジェクト②	長生スタイルの出産・子育てプロジェクト②	（１）安心して出産できる体制作り	①切れ目のない子育て支援	・不妊治療への助成 ・新生児が生まれた家庭の全戸訪問実施 ・おむつ廃棄用ゴミ袋の支給 ・健康教室（ママパパ教室・離乳食教室）の開催 ・高校3年生までを対象とした子ども医療費の助成 ・第2子（保育所等に入所している児童の2人目以降）の保育料無料化実現に向けた検討 ・子ども・子育て安心ハンドブックの作成 ・なかよし広場の運営	A	①医療体制の整備	C	①30～34歳における出生率の向上	基準値	0.316 （H 2 5）	⇒ 達成率 -1.2% 到達度 C	進捗状況は比較的良好で14件の事業のうち、A評価は2件、B評価は10件、C評価は2件となっている。K P Iは微減となっており、達成が困難な状況である。次期計画は、施策事業、方針及び指標設定の関係性が適切であったか否か、十分に検証を加えた上で策定を進める必要がある。 C評価の「安心して出産できる環境づくり」については、事業の道のりが険しいが、確実に効果のある事業と考えられることから、引き続き事業推進に努めるべきであると考えられる。同じくC評価の「教育・保育施設の整備」については、事業は遅れているものの着実に進捗しており、事業手法の改善を図りつつ引き続き進行すべきものと考えられる。		
			②安心して出産できる環境づくり（広域連携）	・地域で出産を支える仕組みづくり ・多様な出産方法の希望に応える環境づくり ・産科医療の体制確保	C	②母と子の健康づくり	A							
			③親の働きやすい環境の整備	・学童保育所の運営 ・保育士の確保による保育所の運営、一時保育の促進	B	③子育て環境の体制作り	B							
			④家庭の状況に応じた支援の実施	・ひとり親家庭の一部医療費の助成 ・医療機関との連携による病児保育の託児費の軽減	B	④保育サービスの充実	B							
			⑤子育て世代包括支援センターの運営	・子育て世代包括支援センターの設置 ・妊娠期から子育て期にわたり切れ目のない支援の実施	A	①保育・教育サービスの充実	B							
			⑥ヴィレッジプロモーション	・子育てに関する情報発信のためのホームページ改修、運営	B	②教育環境の整備	B							
		（２）子どもを育てたくなる長生教育プロジェクト	①幼児期の教育の推進	・ALTの配置による保育所英語教室の実施	B	③指導・相談体制の充実	B		目標値	0.48 （R 1）			⑤健康教育、食育の推進（再掲）	B
			②教育・保育施設の整備	・認定こども園の整備 ・小中学校施設の整備	C									
			③ICT教育の推進	・デジタル教材の活用	B									
			④本村ならではの教育の振興	・長生っ子わくわく青春づくり事業 ・学習指導支援員、特別支援教育助員の配置	B									
			⑤家庭、保育所、学校及び地域社会との連携	・親子教室の実施にむけた検討 ・少年の主張大会実施	B									
			⑥健康教育の推進（再掲）	・各種健診事後指導等による健康教育の実施 ・健康づくり活動の自主グループの育成	B									
			⑦体験型農業の推進事業（再掲）	・村内保育所園児、小中学生に対する農業体験事業の実施 ・地産地消の食育の実践	B									
			⑧グローバル人材の育成	・奨学金制度の創設 ・中学生海外派遣の実施	B									

定性評価の四段階の目安
A：計画以上に進捗しており、継続して推進する
B：ほぼ計画通り進捗しており、このまま継続して推進する
C：目標をやや下回る見込みであり、要因の分析と見直しの要否を検討する
D：目標を大きく下回る見込みであり、要因の分析と見直しを要する

定量評価の四段階の目安
A：達成済みもしくは順調であれば達成する可能性が高い（達成率80％以上）定量評価定評評価
B：最終的に達成するか不明であるが、順調に数値としての成果が上がってきている（達成率50％～80％）
C：目標年次のデータは未確定であるものの、このままだと達成する見込みが薄い（達成率50%未満）
D：目標年次の目標値に対して未達成である

K G I（7月追加数値目標）		定量評価
合計特殊出生率の向上	基準値	1.13 (H 2 5)
	成果値	1.10 (H 2 9)
	目標値	1.55 (R 1)
		⇒ 達成率 -7.1% 到達度 C

第 1 期長生村総合戦略評価書：個票 4

基本目標Ⅳ 「住む魅力のあるまちづくり」

			事業名	取組内容	定性評価	施策展開の方針	定性評価	K P I（重要業績評価指標）			定量評価	まちづくり推進委員会意見		
プロジェクト①	観光振興プロジェクト	（１）「長生（ながいき）体験」のできる観光創造事業	①アイガモ農法の推進	・ 村の知名度向上のための取組 ・ I C Tを活用した情報発信 ・ 各種イベントの広報活動強化	B	①ヴィレージプロモーション(広報活動)による知名度向上	B	①本村における観光入込客数（延べ人数）の増加	基準値	207,415人（H 2 5）	達成率⇒ -22% 到達度 C	進捗状況は平均程度で7件の事業のうち、B評価は6件、C評価は1件となっている。K P Iについては減少しており、達成できなかった。ただし、数値は平成27年に発生した浜欠による大幅な落ち込み以降は持ち直しており、今後の取組による進捗は期待できる。 C評価の「長生観光体験の実施」については、事業は遅れているものの着実に進捗しており、事業手法の改善を図りつつ引き続き進行すべきものと考えられる。		
			②長生（ながいき）ブランド プランディング（広域連携）（再掲）	・ 長生郡市が持つ自然、歴史・文化、食、観光地、特産品、産業等の地域資源の長生（ながいき）ブランド化	B	②「ながいきブランド化」の構築（再掲）	B		成果値	202,458人（H 3 0）				
			③長生（ながいき）体験観光の実施（再掲）	・ 貸農園の利用促進 ・ 体験型農業、生活体験の実施検討	C	③ 観光農業の拡充（再掲）	B							
			④長生（ながいき）村ファンの拡大（再掲）	・ オーナー事業（アイガモ農法米、落花生、そば）の募集案内、人的支援	B	④村づくりへの参加及びコミュニティ活動の促進（再掲）	B		目標値	230,000人（R 1）				
			⑤空き家の有効活用（再掲）	・ 空き家の発生状況の把握と活用検討 ・ 移住、定住へ向けた村の資源としての活用	B	⑤健康村づくりの構築（再掲）	B							
			⑥観光資源の付加価値創出	・ 海水浴場の充実（太陽くんこどもプールの設置等）	B									
			⑦健康づくり・スポーツ活動の推進（再掲）	・ 健康相談、ウォーキング教室 ・ 健康づくり活動の自主グループの育成	B									
プロジェクト②	持続可能なまちづくり	（１）八積駅を中心とした村内周遊の推進	①八積駅周辺の環境整備	・ 駅と駅周辺地域の利便性と魅力の向上 ・ 道路の拡幅、サイクリングロードの整備 ・ 生活に必要な都市機能（商業、公的サービス、医療、福祉ほか）の集約	C	①八積駅・駅周辺の整備	C	①八積駅乗客数	基準値	814人（H 2 6）	達成率⇒ -89.5% 到達度 C	進捗状況は芳しくなく4件の事業のうち、B評価は1件、C評価は2件、D評価は1件となっている。K P Iについては大幅な減少となっているが、主としてハード事業の進捗により得られる成果であることから、今後の実績によらなければ判断がしがたい。今後の事業継続の是非を図るため新たなKPIを設定する等の検討を要する。 C評価の「八積駅周辺の環境整備」及び「都市計画道路の整備」については社会情勢の変化を踏まえ、一部縮小や変更を検討すべきと考えられる。D評価の「道の駅の設置検討」については、再掲事項となる。		
			②道の駅の設置検討（再掲）	・ 八積駅と結ぶ道路・サイクリングロードの整備 ・ 体験型観光拠点としての活用検討	D	②道の駅の整備検討	D		成果値	737人（H 3 0）				
			③都市計画道路の整備（再掲）	・ 八積駅北口線の整備 ・ 東部台城之内線の整備による周辺自治体への通勤、通学及び流通などのアクセス性の向上	C	③道路交通網等の基盤整備	C							
			④周遊型観光のまちづくり	・ サイクリング、ウォーキングコースの検討 ・ 観光マップの改訂 ・ I C Tを活用した観光拠点ネットワーク整備	B	④村内周遊観光実現に向けた取組	B		目標値	900人（R 1）				

定性評価の四段階の目安

- A：計画以上に進捗しており、継続して推進する
B：ほぼ計画通り進捗しており、このまま継続して推進する
C：目標をやや下回る見込みであり、要因の分析と見直しの要否を検討する
D：目標を大きく下回る見込みであり、要因の分析と見直しを要する

定量評価の四段階の目安

- A：達成済みもしくは順調であれば達成する可能性が高い（達成率80％以上）
B：最終的に達成するか不明であるが、順調に数値としての成果が上がってきている（達成率50％～80％）
C：目標年次のデータは未確定であるものの、このままだと達成する見込みが薄い（達成率50％未満）
D：目標年次の目標値に対して未達成である

K G I（アウトカム数値目標）

定量評価

「これから長生村に住み続けたい」と思う人の割合	基準値	78.8％（H 2 7）	⇒ 達成率8.0% 到達度 D
	成果値	79.7％（R 1）	
	目標値	90.0％（R 1）	